

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000084		
法人名	株式会社森津介護サービス (うめユニット)		
事業所名	グループホーム森津苑		
所在地	愛知県豊田市大島町栄25番1		
自己評価作成日	平成25年2月6日	評価結果市町村受理日	平成25年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000084-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル2階		
訪問調査日	平成25年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建てのホームに広い芝生の庭があり開放的な空間はご利用者様・ご家族様・ご訪問者の方にとっても評判です。また広い庭を利用しての行事などもとても喜ばれています、ホーム内でも温かく家庭的な雰囲気を大切にしご利用者様がその方らしく楽しく暮らせるようにお手伝いをさせて頂くホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は豊田市の南部、刈谷市に隣接し、緑豊かな田園が広がる静かな住宅地に位置する。芝生が広がる中に、陽当たりが良く明るい平屋建てのホームである。高齢者福祉への理解を深めるために、職員と管理者は共に研鑽を重ねている。毎月1回認知症専門医の往診があり、投薬に依存しないで、その人らしさを失わない介護に取り組んでいる。入居者はテラスから見える桜やコスモス等、季節の花々を楽しんだり、本部事業所がある弥富市へ芋掘りに出かけたりしている。広い芝生の庭で開催されるバーベキューや秋祭り等の行事には家族や地域の人も参加し、入居者と一緒に触れ合い楽しい時を過ごしている。行き届いたケアに支えられ、安心と安全を保ちながらその人らしく穏やかに生活をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・ステーションに掲示しており、管理者・職員共に理念を理解して業務についている。	理念は誰にでも見やすいように玄関に掲示されている。タイムレコーダーにも貼付され、職員は出勤時や退出時にサービスの提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているかを確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行き近所の店や近所の方と挨拶し、会話をしたりしています又地域の行事に参加したり、苑の行事の際は回覧にて招待している。	町内会に加入し、回覧版で地域の情報を得たり、事業所の情報も発信している。散歩に出かけて積極的に挨拶や会話をしたり、月1回区民会館主催の「ふれあいサロン」に参加している。地域のお祭りでは、お神輿が事業所に立ち寄り喜ばれている。小中学校の体験学習を受け入れて地域との輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋祭りを開催するなど、地域との交流を踏まえ、少しずつ努力している。又推進会議にて区長さん参加で地域の方の理解に協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、区長様の意見を聞き入れ、より良く改善出来るようにサービス向上に努めている。	入居者、家族、区長、地域包括支援センターの参加を得て2ヵ月に1回開催され、話しやすい雰囲気の中で、活発な意見交換が得られている。議事録は参加されていない家族に送付したり、職員にも配布し周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	月一度市から訪問介護相談員が来所され、利用者様と会話される、管理者・スタッフ共に近況を話す、市のアンケートにも参加取り組みを行っている。	市の高齢福祉課に困難なケースの相談をしている。月2回、市主催の「調整会議」に参加し、他事業所との交流を図っている。月1回、介護相談員の来訪があり入居者の様子を見たり触れ合う機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	極力拘束しない方針だが、転倒・転落の危険性のある方に対してすべての職員が正しく理解して行っている。	身体拘束についてマニュアルがあり、会議の中で勉強会をして職員が正しく理解できるように取り組んでいる。玄関は日中開錠しているので、入居者が外出する気配を感じたら、さりげなく寄り添って見守り、安全に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などは実施していないが、利用者様の状態は常に気を配っている、今後勉強会などを実施していくようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた職員間で理解し、活用出来る様に努力している、又全職員に共有出来る様に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解し納得している、不明な点や質問事項についても随時受付対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一度運営推進会議を行い、家族様の意見や要望も反映し、より良い運営に心掛けている。又職員の会議や食事会などで意見交換している。	家族の面会時に意見や要望を聞いている。行事には、家族や親類などの参加も多いので、意見や要望を聞き、申し送りノートに記録をして職員の共通理解を計り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞き入れ反映出来る様に心掛けているが、まだ改善部分がある。	毎月行われるユニット会議で意見や提案を聞いている。話しやすい環境の中で、日常的に個々に聞いたり、申し送りノートの中で把握し、運営に活かしている。面談は年2回あり、個人の要望や希望、意見などを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回の面談と話し合う機会があり、就業環境はいいと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように環境をととのえてはいるが、現状は外部研修に参加できていないが、介護力の向上のために、今後参加出来る様に努めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列会社の方との交流はありますが、他社との交流はとれていないので、これから交流できるように努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴・受容を共感を心掛け、利用者様が安心出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事、不安な事、要望等を理解し、相談しながら介助にあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と相談の上、必要と思われる方向でのサービスに努めている、又職員間でも話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様より、自主的に家事などを手伝って頂けるように関係作りしている、又いつも近い位置で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも、日々の様子をお伝えし、ご利用者様にとって何がいいのか、話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪された時は楽しく会話されている。馴染みの人も年をとってきているので、こちらから出向けるように支援を考えていく。近場の理髪店に希望があり、支援している。	入居時に聞き取りをし、馴染みの人や場所などの関係が途切れないように支援をしている。家族の都合がつかない時には墓参りに同行するなど、個別対応もしている。日常会話の中から入居者の希望を察したら、出来ることはすぐに取り組むようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどに参加してもらい利用者同士がコミュニケーションを増やし、又職員も利用者との関係を把握して支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でもご家族様の必要に応じて相談や支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情、行動、言動から本人の希望などを把握し、その人らしい暮らし方を送ってもらえる様努めているがこれからも課題として努めていく。	生活歴を基にしたたり、入浴の時や就寝前などゆったりしているときに聞いている。意思の疎通が困難な時は家族から聞く等して希望や要望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員がしっかりと把握しその方に合わせたケアに努めている又他の施設からの利用者様は情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見逃さず、利用者様の今出来る事を職員間で話し合い行える様心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づきモニタリングを行い定期的に家族様とも話し合いの場を設け努めている。	3人の入居者に対して、2人の職員で担当をしている。全職員が全入居者の介護計画を把握し、現状に即して見直しがされている。半年ごとに本人や家族、担当者を交えてのカンファレンスにより、それぞれの意見を反映したケアプランが更新されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で話し合い、情報を共有し、改善策などを相談している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様に常に柔軟な支援できる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をあまり把握出来ていない為、今後の課題としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の内科往診 月に一回の認知症専門医往診があり、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診は家族の協力を得ている。書面で入居者の様子を伝え、受診結果は申し送りノートに記録をして職員に周知している。月2回協力医、月1回認知症専門医、歯科医の往診があり。薬剤師が同席し処方薬の管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡が取れる様になっており支援出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーを提出して情報を共有し入院時には何度か「面会に伺い現状を把握している退院の際も情報書も頂き共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には契約時にホームで出来る事出来ない事を十分に説明し、終末期に近づいた時は主治医より説明して頂き早めの話合いを心掛けている。	入居時に入居者、家族に「重度化した場合における医療体制指針」を説明して同意を得ている。重度化した場合には家族や医師と話し合いをしながら連携を図り、支援をする取り組みがされている。職員には会議の中で「重度化した場合の対応」の話合いをしたりメンタルケアにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段より予測可能な急変に関する対応策は話し合いをしているがこれからの課題でもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回実施、地域住民の参加までには至っていない。	年2回の避難訓練を実施している。消防署立合いのもとで、夜勤者各ユニット1名による夜間を想定した訓練を行い、通報、避難誘導、情報伝達等が実施されている。水や米等3日分の備蓄をしている。	職員だけの対応の限界を確認し、町内会を通して地域住民の協力が得られるような体制の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように言葉などに注意し声掛けにも注意しているがこれからも課題として努めていく。	日常的なケアの中で馴れ合いになり、入居者の尊厳を損ねないように、声かけや言葉遣いにも配慮をして丁寧語を使う取り組みをしている。排泄、入浴等は、なるべく同性介助をするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本に様の自己決定が出来る様に、思いや希望に出来限り添える様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まり、都合を優先する事はないが、周囲の状況によっては希望に添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何時もではないが、声掛けにて一緒に行えている。自主的にお手伝いして下さる事もある。アンケートにて希望を聞いて、作ることもある。	入居者の希望を聞き一緒に献立を考え、一緒に買い物に行ったり、調理や盛り付け、下膳等、その人の出来ることを行っている。時には家庭のようにスーパーのお弁当ということもあり目先が変わって喜ばれている。職員は入居者と会話をしながら、一緒に食事をして楽しい雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり制限や食事形態が違う為、それぞれ合った状態で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	総入れ歯の方はスポンジにて清拭、自己にて行える方は残さ物がないか確認し毎日義歯の消毒している、訪問歯科の先生にも指導を受けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせた声掛け誘導している、出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。	一人ひとりの力や排泄パターン、気分に合わせて、きめ細やかな支援がされている。失禁時は、さりげなく小声で声掛けをして本人が傷つかないようにし、羞恥心や不安を軽減する配慮がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝牛乳を飲んだりしている、又食事などで寒天などを出している、散歩なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望の方はその都度入浴されている。	できるだけ、好きな時間に入浴をしている。車いすの方はリフトによる入浴があり、温かいお湯に浸かっている。入浴を拒む方には無理強いをせず、話をしながら自然に気分よく入浴が出来るようにしている。入浴剤や季節のゆず湯、しょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たい時には寝すぎない程度に横になって頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て把握出来ていないが、新しい薬が増えた時は確認している、又情報書なども確認して注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出しない利用者にも声掛けをして散歩、買い物、喫茶店に行く。利用者から希望があればその都度対応している。	お天気の良い時は、毎日事業所周辺への散歩に出かけ、近所の方と話をしたり、草花を眺めたりしている。月に1回の外食や季節折々の花見や水族館の見学、バリアフリーの宿泊施設に日帰り旅行に出掛けている。入居者の要望に合わせて個別外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様の支援はできているが、金銭管理できない方も居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は相手から来た時のみ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはそれぞれが気兼ねない様に過ごせる配置に気を付けている、又季節感が感じられるように支援している。	玄関には季節の生け花が生けて有り、職員の紹介や予定等が掲示されている。リビングには入居者の習字などの作品や、行事の時の写真が掲示され、職員と楽しく思い出を語り合っている。室温調整はされているが、外気を入れて季節を感じる配慮もあり、居心地よく過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂は広々しておりソファー、テレビがあり利用者の憩いの場になっている。庭にはテラスがあり季節感が感じられるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の荷物は自宅などから使い慣れた物で、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室にはベッド、クローゼット、エアコン、カーテン、ナースコールが設置されている。使い慣れた家具や好みの物が持ち込まれ、畳敷きに布団で休んでいる方もいる。入居者がゆったりと居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、フローアなど広く、手摺りがあり歩行しやすい、トイレ、居室には表札がありわかりやすくなっている、又居室内でも個々に合わせた工夫をしている。表札、掲示物、家具の配置・畳など		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000084		
法人名	株式会社森津介護サービス (ももユニット)		
事業所名	グループホーム森津苑		
所在地	愛知県豊田市大島町栄25番1		
自己評価作成日	平成25年2月6日	評価結果市町村受理日	平成25年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000084-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル2階		
訪問調査日	平成25年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建てのホームに広い芝生の庭があり開放的な空間はご利用者様・ご家族様・ご訪問者の方にとっても評判です。また広い庭を利用しての行事などもとても喜ばれています、ホーム内でも温かく家庭的な雰囲気大切にしご利用者様がその方らしく楽しく暮らせるようにお手伝いをさせて頂くホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・ステーションに掲示しており、管理者・職員共に理念を理解して業務についている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行き近所の店や近所の方と挨拶し、会話をしたりしている。又地域の行事に参加したり、苑の行事の際は回覧にて招待している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋祭りを開催するなど、地域との交流を踏まえ、少しずつ努力している。又推進会議にて区長様などにも参加して頂き地域の方の理解に協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、区長様、地域包括様などのご意見も大切に受け止め、より良く改善出来るようにサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一度市から訪問介護相談員が来所され、ご利用様と会話される、管理者・スタッフ共に近況をお知らせし、ご利用様も相談員さんの来所を楽しみにされている。市のアンケートにも参加取り組みを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	極力拘束しない方針だが、転倒・転落の危険性がある方に対してご家族様の希望があれば話し合いの上決めている。すべての職員が正しく理解して行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などは実施していないが、利用者様の状態は常に気を配っている、今後勉強会などを実施できるよう努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた職員間で理解し、活用出来る様に努力している、又全職員に共有出来る様に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解し納得して頂いている、不明な点や質問事項についても随時受付、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一度運営推進会議を行い、ご家族様の意見や要望も反映し、より良い運営に心掛けている、又職員の会議や食事会などで意見交換している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞き入れ反映出来る様に心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回の面談でも話し合う機会もあり、就業環境は良い方だと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように環境を整え、市が主催の研修へ参加させている。また介護力の向上のために働きながらの指導も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居相談などで同業者との交流をしている。お互いの施設見学などをしサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴・受容・共感に心掛け、利用者様が安心出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安をしっかり理解し要望等もお聞きしながら相談し合い介助にあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と相談の上、必要と思われる方向でのサービスに努めている、又職員間でも話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様より、自主的に家事などを手伝って頂けるように関係作りをしている、又いつも近くで寄り添い信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも、日々の様子をお伝えし、ご利用者様にとって何がいいのか、電話や面会時にその都度話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪された時は楽しく会話されている、馴染みの人も年をとってきているので、こちらからも出向けるよう支援を考えていきたい。近場の理髪店に希望があり、通い続けられるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどに参加してもらいご利用者様同士のコミュニケーションを増やし、又職員も利用者との関係を把握し席替えなどをしながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情、行動、言動から本人の希望などを把握し、その人らしい暮らし方を送ってもらえる様、日々考え努力しているが、より一層の努力をしていきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員がしっかりと把握しその方に合わせたケアに努めている。又他の施設から移られてみえるのご利用者様については前情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見逃さず、ご利用者様の今出来る事を職員間で話し合い行える様に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づきモニタリングをし、定期的に家族様とも話し合いの場を設け努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で話し合い、情報を共有し、改善策などを相談している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様に常に柔軟な支援ができる様、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治区が行っている、ふれあいサロンに参加し地域住民との交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の内科往診、月に一回の認知症専門医往診があり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡が取れる様になっており支援出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出して情報を共有し入院時には何度か「面会に伺い現状を把握している退院の際も情報提供書や看護サマリーも頂き共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には契約時にホームで対応できる事、できない事を十分に説明し、終末期に近づいた時は、早めに話し合いの場を設け、主治医よりご家族様へ説明して頂くよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段より急変に関する対応策は話し合いをしているが定期的な訓練は行っていないが今年には訓練を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回実施、地域住民の参加までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように言葉などに注意し声掛けにも注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定をできる様、思いや希望に添える様努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添う支援を心がけているが、周囲の状況によっては希望に添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回ではないが、声掛けにて一緒に行えている。自主的にお手伝いして下さる事もあり、アンケートにて希望を聞いて、作ることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり制限や食事形態が違う為、それぞれ合った状態で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいができない方にはスポンジブラシにてケアを行い、自己にて行える方は残さ物がないか確認しあれば介助させていただく。毎日義歯の消毒をし、訪問歯科の先生にも指導を受けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせた声掛けや誘導をしている、できる限りトイレでの排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、牛乳を飲んだり、食事でも食物繊維を多く摂るなど心がけ、寒天なども時々出している、散歩なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望の方はその都度入浴されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たい時には寝すぎない程度に横になって頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て把握出来ていないが、新しい薬が増えた時はご利用者様の状態を確認している。又薬情書なども確認して副作用などにも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を好まれないご利用者様にも声掛けをし、無理強いせず、散歩、買い物、喫茶店にお誘いする。ご利用者様から希望があればその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様の支援はできているが、金銭管理できない方も居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を出せるよう希望に添って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはそれぞれが気兼ねない様に過ごせる配置に気を付けている、又季節感が感じられるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂は広々しておりソファー、テレビがあり利用者の憩いの場になっている。庭にはテラスがあり季節感が感じられるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の荷物は自宅などから使い慣れた物で、居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、フローアーなど広く、手摺りがあり歩行しやすい、トイレ、居室には表札がありわかりやすくなっている、又居室内でも個々に合わせた工夫をしている。表札、掲示物、家具の配置・畳など		